

森林

家畜管理

複合生態フィールド

農耕地

複合生態フィールド：

農地、林地などの異なる生態系が複合的に  
集合して形成されたフィールド

資源循環

アクセス



|     |                                            |
|-----|--------------------------------------------|
| 鉄道  | 東北新幹線古川駅からJR陸羽東線「鳴子温泉行き」で「川渡温泉駅」下車。徒歩約30分  |
| 自動車 | 東北自動車道「古川IC」から国道47号線を鳴子温泉方面へ約40分           |
| バス  | 仙台駅前のりばから高速バス「鳴子行き」で「川渡温泉駅」下車（75分）、徒歩約35分。 |

川渡フィールドセンター

お問い合わせ

東北大学大学院農学研究科  
川渡フィールドセンター 教育関係共同利用担当

TEL 0229-84-7311 FAX 0229-84-6490  
Mail Kyodou-riyou@bureau.tohoku.ac.jp  
URL <http://www.agri.tohoku.ac.jp/noujou/index.html>



Field Science Center,  
Graduate School of Agricultural Science,  
Tohoku University  
Integrated Terrestrial Field Station  
[Kawatabi Field Center]

教育関係共同利用拠点について

多様化する社会と学生のニーズに応えるために、各大学の有する人的・物的資源を有効活用することで、大学全体として質の高い教育・研究を実施することを目的としています。その実現のために、全国の大学を分野毎に共同利用拠点として整備し、大学間で共同利用する取り組みをサポートする制度です。

教育関係共同利用拠点としての川渡フィールドセンター

本センターは、「食と環境のつながりを学ぶ複合生態フィールド教育拠点」として文部科学省より「教育関係共同利用拠点」(平成23年度～27年度)に認定され、他大学の学生へフィールド教育プログラムを広く提供しています。教育プログラムとして、受講者の専門性を配慮し、3タイプ(「レディメード型」「ギャザリング型」「オーダーメード型」)を開講しています。

川渡フィールドセンターについて

● 広大なフィールド ●

東北大学川渡フィールドセンターは、大学附属農場として全国一の規模を誇り、山地から低地にいたる2,200haの広大なフィールドに、森林・草地・農地が地形に応じて複合的に配置されているという他に例のない特徴を有しています。

● 高い専門性 ●

12名の教員が常駐しているほか、各専門の技術職員を多数擁し、高い専門性をバックグラウンドに農業に関わる個別の技術だけではなく、「食」を支える環境を、すなわち、農耕地・草原・森林という個々の生態系を複合系として捉え、それらを通して水・養分などが循環し、生物が相互作用していることを、一つのフィールドで体感しながら学ぶことのできる施設です。

単位互換制度

学都仙台コンソーシアム加盟の大学からの受講生は、単位互換制度により単位取得が可能です。その他の大学についてはご相談ください。

受講者の声

有機栽培と慣行栽培の稲を実際に見て、色や穂の違い、雑草の有無などあまりに違って驚いた。

可愛い牛が食べられるために育てられていることは知っていたが、間近で見て話を聞いて、これからは、より「ありがたく」頂こうと思った。

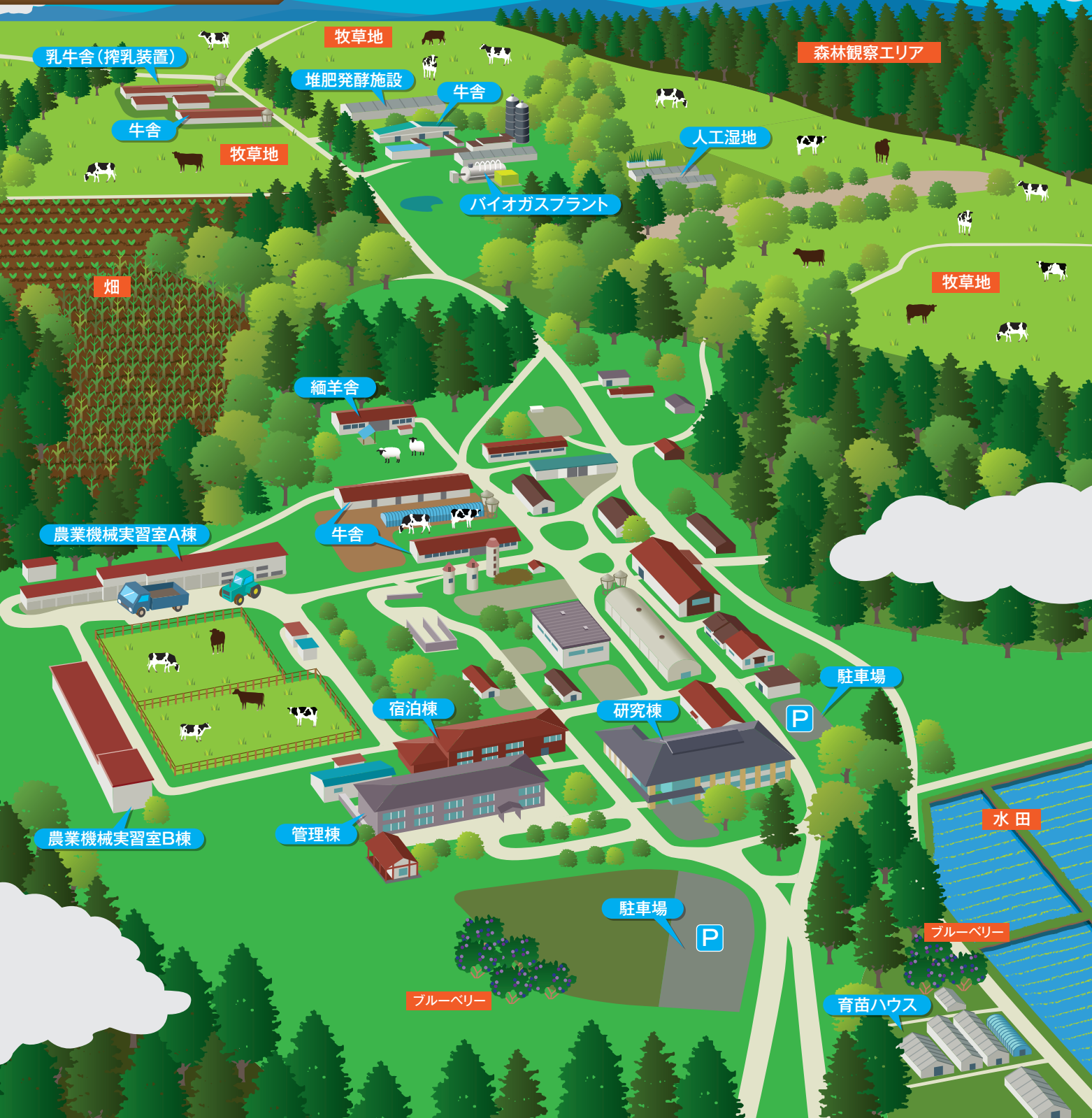
今後食べ物関係の仕事につく時には、「いのち」の大切さを理解し、伝えていけるようにしていきたいと強く思った。

2014年度  
の実績

- ◆ 学生参加合計：191名
- ◆ 学生参加延べ人数：379名
- ◆ 利用大学：21校



# フィールドマップ



## 教育プログラム実習内容

### レディメード型講義・フィールド環境学

開講期間：9月中旬の3日間  
対象：あらゆる学問を専門とする学部生

#### 概要

食料生産が環境によって支えられていること、その恩恵を受けて人間が生活できていること、また食料生産をはじめとする人間活動が環境に影響を及ぼしていることを、わが国随一の規模を誇る東北大学・川渡フィールドセンターで学びます。広大なフィールドで体感することを通して、環境問題について自分の力で考える能力を養成します。講義はフィールド講義と課題研修の2ステップに別れています。

#### フィールド講義

植物・動物・微生物などの生き物、あるいは土壌や水質などの環境を専門とする教職員が、水田と稲、牧草地と畜産、農林畜産業と水、森林の生き物の多様性、牛肉・牛乳と食育などについてフィールドで作物や家畜に触れながら講義を行います。

#### 課題研修

5つのグループに分かれて、それぞれのテーマについてフィールド調査・実習を行います。調査・実習の結果をグループごとに報告し、議論を通して、食を支える環境について学習を深めます。



- 1 水田と土
- 2 草地と家畜
- 3 農業にまつわる水質の調査
- 4 森林におけるキノコの役割
- 5 乳製品加工を通じた食育

### オーダーメイド型講義

当フィールドセンターで実施可能なフィールド講義・実習等の素材を提供し、他大学教員の教育目的に沿う実習プログラムを提供いたします。

#### 実習素材の例

- 水田の水生生物調査
- イネの有機栽培に関する講義
- 農作物収穫実習（米、ブルーベリーなど）
- 樹木探索実習・森林生態系に関する講義
- 草地の植生調査
- 家畜の行動調査・動物福祉に関する講義
- 資源循環に関する講義



実習例 桜の聖母短期大学（90名）2014年度

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 10:30-12:20 | 稲の有機栽培に関する講義・<br>肉牛生産に関する講義（給餌体験） |
| 12:30-13:20 | 昼食                                |
| 13:20-15:00 | 乳製品から考える食育（バター・キャラメル作り）           |

### ギャザリング型講義

本学の教育科目として実施中の講義・実習に他大学の学生が加わります。他大学学生にとって、教員から教育を受けるに留まらずに、東北大学の学生と交わるにより、大学及び専門分野が異なる同世代から学ぶことも少なくありません。受け入れ可能な実習、実習内容についてはホームページをご覧ください。



森林調査実習

➡ <http://www.agri.tohoku.ac.jp/noujou/events/gathering.html>

また、東北復興農学センターが当フィールドセンターで開講している「復興農学フィールド実習」では、広く他大学の学生の受講を募集しています（詳しくは東北復興農学センターのホームページでご確認ください）

➡ <http://www.rac.agri.tohoku.ac.jp/curriculum/>